

ここ数日は暖かい日が続き、関西でも来週には、桜の開花情報が聞かれそうです。現在会員登録数 1,392 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 4 月 22 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 43

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「第30 回 日産 童話と絵本のグランプリ」入賞作品決定

全国のアマチュア作家から寄せられた創作童話 2,321 編、絵本 481 編、計 2,802 編の中から、入賞作品 38 編を決定しました。

・童話の部 大賞 『カエルと王かん』 なかじま ゆうき さん

・絵本の部 大賞 『木(きい)ちゃん』 ながやま ただし さん

上記の2作品は、後日、絵本として出版されます。

◇入賞作品展 3月29日(土)まで開催中

大阪府立中央図書館1階エントランスおよび国際児童文学館展示コーナー

開催日・時間は、上記館の開館日、時間に準じます／

入場料：無料

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● ネットで体験! 「ドキドキ絵本づくり for Kids」ウェブサイト開設

子どもが自分で絵本を作れるウェブサイトを開設しました。佐々木マキさんの楽しいキャラクターがご案内します。ぜひサイトで体験してください。

・「絵本とは?」遊びながらナットク 絵本の構成要素を学びます。

・「絵本をつくる」いろいろな絵本の作り方を紹介 体験できます。

・「プロにまなぶ」プロの絵本作家の絵本づくりワークショップを体験

・「みんなの作品」見るだけでなく、自分の作品を公開することもできます。

※ 平成25年度子どもゆめ基金 教材開発・普及助成活動

<http://www.justice.co.jp/dokidoki/>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募ってい

ます。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『あたらしい子がきて』 岩瀬成子/作 上路ナオ子/絵 岩崎書店 2014年2月
対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：9歳のみきは母親が産後の里帰りをしている間、「お母さんに忘れられたかわいそうな子」のふりをしていたが、母と赤ちゃんのけんが帰宅、祖母も一緒にやってくる。みきは、けん中心の生活やおばあちゃんが「いいおねえちゃん」を押し付けることに違和感を抱くが、祖母の姉のおおばあちゃんが来てみきと妹のるいのことを理解してくれたり、るいの距離感が縮まったりする中で、新しい家族関係を受け入れていく。

O：中学年向けなのですが、おとなの読者も楽しめる作品ですね。

Y：岩瀬さんの作品はいつも子どもの微妙な気持ちの変化をわかりやすいことばで的確に描いていくうまさがあって、何度も読みたい気にさせますが、この作品も家族が増えたことに対するみきの気持ちがしっかり描かれています。

O：人間関係の描き方が本当に巧み。中学年ぐらいの子どもが、赤ちゃんの誕生によって家族関係が変化することに不安を感じている様子がくっきりと描かれています。

Y：この本を読んでいると子どもの頃の妹との関係を思い出しました。私の妹も犬の真似をよくしていました。そして、みきが、自分の関係をおばあちゃんとおおばあちゃん姉妹と重ね合わせられるように描かれている点もおもしろかったです。

O：おおばあちゃんという少し家族から離れた視点で家族を包み、みきとるいを理解してくれる存在は貴重ですね。悪夢を見る場面はリアリティがあって印象に残りました。子どもの頃は、際限なく落ちて行くという夢をよく見ます。その上、随所に上質のユーモアが散りばめられていて、いい感じが出ていました。

Y：作品にはみきが公園で出会う、よしえちゃんとあきちゃんという姉弟も登場します。よしえちゃんはあきちゃんによると、57歳だけれど心は3歳です。

O：多様な「きょうだい」のありよう、年の取り方が書かれている点にも共感します。タイトルの『あたらしい子がきて』は、ぎこちない感じがしますが、「来る」「行く」をきっちりと使い分けたためだったのですね。

Y：あえて「赤ちゃん」という言葉を使わないところに工夫が見られますが、1作目の『なみだひっこんでる』に比べるとインパクトが弱い気がします。

O：決まるまでにはいろいろあったとは思いますが、もう少し手にとってもらいやすいタイトルだったらなあとは思いました。とはいえ、代替案を出そうと考えたのですがうまくいきませんでした。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 43

その8 おはなし会の実際（1）準備

今回からおはなし会の実際について考えていきたいと思います。予定の内容は次号に変更して、まず、「準備」について確認したいと思います。

おはなし会の日時、場所が決まったらその場所をできるだけ事前に確認し、どのような空間を作ったらいいかを考えます。聞き手はカーペットに座るのか、椅子に座るのか、語り手、または絵本の読み手は椅子に座るのか、立って行うのかなどを事前に決めておくと、練習がしやすくなります。

また、絵本が光って見えにくい場所では読み手の立つ位置を変えたり、カーテンを閉めたりするなどの工夫が必要です。学校で行う場合には、子どもが席に座ったままではおはなし会を要望されることがありますが、一番後ろの子どもは絵が見えないことが多く、子どもたちがばらばらに座っているために集中がとぎれることが多いので、できれば、椅子か床にまとまって座ってもらうようにすることが望ましいです。

プログラム内容については、グループ内で確認し、練習しておくと同時に、学校等で行う場合は、内容を事前に伝えておく方がいいでしょう。最近、学校図書館司書も増えており、図書の時間に読む絵本とおはなし会で読む絵本が重ならないようにすることや、おはなし会で読んだ本を会終了後に図書館で展示してもらうなどの連携ができると、おはなし会をきっかけに子どもたちが本を手にとる可能性が広がります。

図書館等でおはなし会をする場合には、想定している年齢と異なる子どもが多く参加することなどが考えられるため、予備の絵本やおはなしが用意できれば理想的です。もちろん、幅広い年齢で楽しめる本やおはなしが選ばれていれば、予備を用意する必要はありません。

読む絵本はできるだけ図書館の本にして、読んだ後借りて帰ってもらえることが望ましいと言えます。おはなし会のテーマの本を図書館の一角に別置してもらったり、テーマの本を図書館司書さんに紹介してもらったりという連携も、参加者がおはなし会と図書館を結びつけて考えることにつながります。

* 次号は「その8 おはなし会の実際（2）始め方・終わり方・手遊び」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。
(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇 23 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

● ネットミュージアム兵庫文学館制作グループ

ネットミュージアム兵庫文学館 <http://www.bungaku.pref.hyogo.jp/>

近年、さまざまなネットミュージアムが構築されてきていますが、そのなかでも比較的早い段階から公開され、コンテンツの充実を図ってきているのが本サイト「ネットミュージアム兵庫文学館」です。

兵庫県にゆかりのある作家や作品を、まるで美術館や博物館の常設展・企画展を見ているかのようにバーチャルで体験できるのが特徴です。平成14年に作られ、以降毎年少しずつコンテンツが追加されてきており、画像や動画・アニメーションが多く取り入れられています。画像データベースというわけではありませんが、多彩なコンテンツが搭載されています。

内容は、大きく〈常設展示〉と〈企画展示〉の2つに分かれています。時代（古典～現在）や地域（文学マップ）から、主な作品や著作を検索できる前者も興味深いのですが、なんと言っても見どころは後者の〈企画展示〉。この中をさらに「室町時代以前」「江戸時代」「近現代」「昔話・紙芝居」の4つに分類し、江戸では人形浄瑠璃や忠臣蔵、近現代は柳田国男・小泉八雲・水木しげるなど、全26ものメニューがあります。例えば、「赤とんぼの詩人三木露風」では、露風の生涯や周囲にいた人びと、露風を育んだ風土や風景、著作リストなど、露風の生きた時代が実にわかりやすく構成されています。

他に、尼子騷兵衛、宮本輝、永田萌などの作家が文学の楽しさを語る「講堂」（ビデオメッセージ）、県にゆかりのある文学クイズ「兵庫文学館検定」なども。初級編から挑戦してみたいはいかがでしょうか？（J）
※次号は、一次資料データベース篇〈その24〉の予定です。

《4》 行って来ました！

このほどリニューアルオープンした京阪樟葉駅前の「くずはアートギャラリー」、記念企画展「えほん／えいぞう／ぽっぷあっぷ」に行ってきました。

第1展示室は「しかけ絵本・ポップアップ絵本の世界」です。しかけ絵本のはじまりの頃から現在までの約20冊の絵本が解説とともに展示されています。“Neue Thierbilder”というローター・メッケンドルファー作の1800年代のしかけ絵本もありましたが、傷みもなく、色も鮮やかで驚きました。にわとりが餌をついばむ画面のページが開かれていて、しかけを引っぱってみたい衝動にかられます。あとでギャラリーのブログに動かしてみせてくれる映像があるのをみつけ、うれしかったです。

そのほかにも、アーネスト・ニスターの円盤回転式変わり絵、20世紀以降のジラウド社のポップアップ絵本、ブルーノ・ムナーリ、ジャン・ピエンコフスキー、駒形克己の絵本が展示され、しかけ絵本の魅力を十分に楽しむことができました。

第2展示室は「現代作家の表現／重田佑介『がそのもり』」です。楽しい音楽が流れる暗い部屋の中、天井からの映像を何も描かれていない白い本で映しとるようにして見ます。

白い本に映された像は最初は点の集まりにしか見えませんが、よく見ると物語がわかってきます。画面に登場する人物の動きに合わせて移動していくと、物語の展開が楽しめるようになっていきます。移動するにつれて、次々と物語が現れてきて、気がつけば部屋を1周していました。浦島太郎や白雪姫などだれもが知っている童話や昔話なので、子どもも大人も楽しめます。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 第24回 箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：4月1日(火)～5月15日(木) 必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部(作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品)

・一般の部A部門(個人団体を問わず当コンクール入賞経験者)

・一般の部B部門

主催：箕面市教育委員会 / 人と本を紡ぐ会

問合せ先：箕面市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『あたらしい子がきて』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.43プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は4月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

冬の間は、一度も風邪を引かずに持ちこたえていたのに、ここにきて、熱っぽい、のどが痛い、どうやら風邪の諸症状。春の訪れとともに風邪かぁ…。いやもう一つ消費税率のアップが待ち受けている。せいぜい電車の回数券でも買いためするとしましょう…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
